

大阪府泉南市教育委員会

# 教育委員会はユーチューバー

## 1. はじめに

教育委員会がユーチューバーに——

この報告は、令和2年に始まったコロナ禍という人類史的な「挑戦」に、大阪南部人口約6万人の泉南市の教育委員会が果敢に「応戦」した記録です。

泉南市教育委員会では、約3か月にわたる休校や各種行事の制限など、できないことだらけの中、休業中でもできる取組として、泉南市立青少年センター（山口雅美館長）が中心となってYouTubeブランドアカウントを取得し、「泉南市教育委員会 YouTube ブランドチャンネル」を開設しました。

「ユーチューバー泉南市教育委員会」の誕生です。

本稿では、その開設の経過、コンテンツ、課題、今後の展望についてまとめました。

<令和2~3年度に配信した内容>

- ・授業動画（地元テレビ局による）
- ・児童向けものづくり動画
- ・市内施設・環境紹介動画
- ・学校再編計画説明動画

## 2. 開設の経緯

令和2年2月27日、国の新型コロナウイルス感染症対策本部において、小中学校・高等学校及び特別支援学校における全国一斉の臨時休業を要請する方針が当時の安倍内閣総理大臣より示されました。

期間は、週明けの3月2日から春季休業の開始日までの約3週間であり、スタートまでの期間は、市役所閉庁日の土日を含んでわずか3日間という極めて短いものでした。

泉南市教育委員会でも、このかつてない緊急事態に、学

校園、所管する社会教育施設、社会体育施設などの各現場は混乱と試行錯誤の日々を過ごすこととなりました。

○

泉南市の小中学校教職員は、令和2年3月の小中学校等の臨時休業期間中、学習の保障のため、家庭でできる学習プリントの作成や家庭訪問などきめ細やかな対応を行っていました。

また、卒業・修了の時期であったため、式典や様々な行事に変更を要する状況となり、その対応に奔走していました。

また、青少年センターにおいても、学校の休業により、日ごろ学童保育を利用していない多くの児童を保護者が帰宅するまで預かる必要から、児童館事業を実施する青少年センターの職員が中心となり、学童保育支援員、幼稚園教諭、その他教育委員会職員、市職員などに幅広く応援要請し、臨時の子どもの居場所づくり事業を新たに実施しました。

しかし、春休み明けの4月に1度目の緊急事態宣言が発出され、一斉休校のため子どもたちが登校できない日々が再び始まりました。できないことはかき増えていき、大人も子どもも非常に閉塞感のある毎日を過ごすこととなったのです。

## 3. はじまりは地元テレビとのコラボ

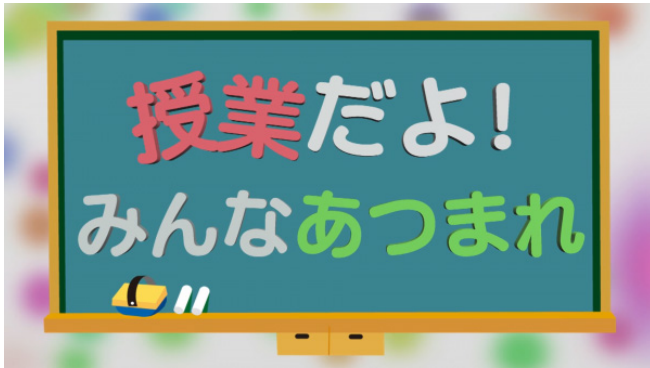
そこで、泉南市教育委員会は、休業中の子どもたちの学習支援を少しでも進めるため、教員の発案により、地域のCATV事業者である株式会社ジェイコムウエストに対して、泉南市立小学校の教諭が子どもたちに向けて授業を行う動画の放送企画を持ち込みました。

これが、地域貢献事業を検討しておられた同社のニーズと合致し、特別番組「授業だよ!みんなあつまれ」の制作が開始されました。

コロナ禍のため、撮影は全て教職員が行い、それにキャプション等を付けて、放送するというものでしたが、そのク

オリティの高さが話題となり、市域を超えて多くの人々に視聴され、話題となりました。

次第に近隣の自治体も参加され、最終的には全10回の放送となりました。この番組は本市のみならず泉南地域の子どもたちに役立つコンテンツとなり、コロナ禍でなければ挑戦できなかった新たな取組でした。そして放送終了後の現在もJ:COMチャンネルのウェブサイトから見る事が可能となっています。



<https://c.myjcom.jp/jch/p/jugyoudayo-rinku/>

## 4. YouTube ブランドチャンネルの開設

一方で緊急事態宣言により、所管する社会教育関係の児童館事業や子どもの居場所づくりに関する事業などもほとんど実施できない状況となりました。

休業中でも子どもたちに何かしてあげられることはないのかという思いの中、直接会うことはできなくても体験の機会を与えることができるツールとしての動画配信はできないか——そう考え、子どもたちが家庭にしながら充実して過ごせる手助けになればと、前述の特別番組に負けじと、青少年センターでYouTube動画を制作し、配信することを計画しました。

○

ブランドチャンネルの立ち上げ作業については、最初に青少年センターにおいて「泉南市教育委員会 Youtube 運用方針」を策定しました。

そしてYouTubeブランドアカウントを取得し、令和2年5月1日に「泉南市教育委員会 YouTube ブランドチャンネル」を開設したのです。

YouTube動画の公開にあたっては、青少年センターだけでなく、教育委員会全体の情報発信力の強化の観点から、

「泉南市教育委員会」ブランドでのチャンネル作成といたしました。

## 5. 令和2年度の配信

令和2年度は、青少年センターで「おうちでやってみよう、かんたんものづくり」シリーズを、5月末から12月にかけて計6本配信しました。小学校低学年でも簡単にできるものをコンセプトにしています。

### ●おうちでやってみよう、かんたんものづくり

- 1 おりがみでつくろう!カラフルけっしょう
- 2 プラバンづくり
- 3 クッキーづくり
- 4 ぶんぶんごまづくり
- 5 スイートポテトづくり
- 6 クリスマスカざりづくり



動画作成、配信については、どの職員も未経験で、青少年センター職員全体で企画案を出し合いました。そして、撮影編集などのスキルを持つ職員が主にコンテンツの企画、撮影編集までを行いました。それぞれが家族に協力を得て撮影するなど試行錯誤の毎日でした。

テレワークが始まった時期でもあり、それぞれの自宅でYouTube動画の作成、編集にあたることもありました。観光部門の職員でもなく、教育委員会事務局職員である自分たちが、まさか仕事でYouTubeに動画配信する日がやっ

てくるとは思いもよらないことでした。

## 6. 令和3年度の配信

令和3年4月には、3度目の緊急事態宣言が発出され、その後も期間の延長が続いたため、休館となっている青少年センターで実施できなかった講座などを、子どもたちが飽きずにみられる短時間のコンテンツとして配信することにしました。

それが、「おしえて!せんくませんせい」シリーズです。泉南熊寺郎（せんなんくまじろう。愛称「せんくま」）は、泉南市のゆるキャラで、江戸時代からタイムスリップしてきた侍です。彼が先生となって、相棒の妖刀「あなご丸」とともに色々な事を教えてくれます。

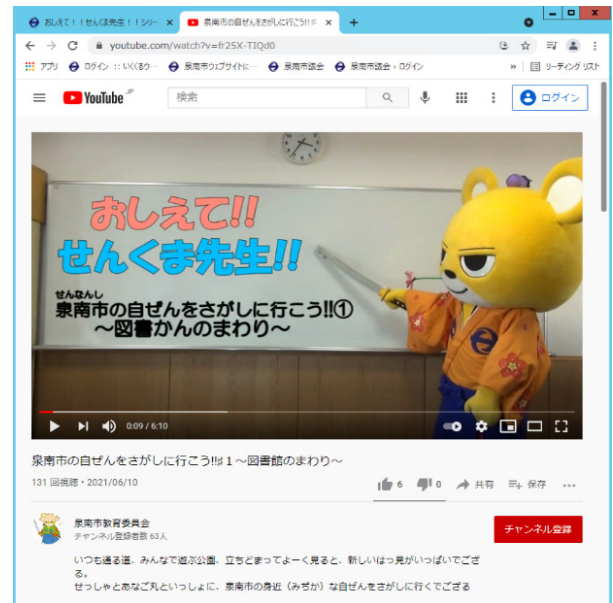
このシリーズからは、作成にあたって子どもたちにわかりやすく、より楽しめるよう、絵コンテを作成してから撮影をする手法を取り入れました。

### ●おしえて!せんくませんせい

- ・「ゴムとび」をやってみよう!!その1
- ・「ゴムとび」をやってみよう!!その2
- ・泉南の自ぜんをさがしに行こう!! 1  
～図書館のまわり～
- ・泉南の自ぜんをさがしに行こう!! 2  
～ハクセンシオマネキとホテル～
- ・泉南の自ぜんをさがしに行こう!! 3  
いちおかしんじゃかい えじあと  
～岡神社海寺跡広場～
- ・市民交流センターの児童館へあそびに行くでござる!!
- ・「みんな仲よし」にあそびに行くでござる!!
- ・展示がいっぱい、樽井公民館でござる!!
- ・ちびっ子遊び広場 in 埋文へ遊びに行くでござる!!
- ・図書館ってどんなところ?

今後、火を使わずできる簡単料理や、科学実験動画などを配信予定です。

また、大人向けのコンテンツとして、「**泉南市立小中学校再編計画<複数原案>説明動画**」を配信しました（教育総務課作成）。



この動画は、泉南市内にある14の小中学校の今後の再編計画の原案を市民に公表したものです。本来であれば、令和2年度末にも各学校を回って住民説明会を開く予定でしたが、コロナ禍で大幅に延期になったため、急遽作成して広報したものです。



これにより、忙しくて決まった時間と場所に行けない方でも、オンデマンドで内容を知ることができます。

学校再編計画への関心の高さから現在のところ本ブランドチャンネル中最多の再生回数となっています。

## 7. 課題

教育委員会として動画を配信する上での主な課題は次のとおりです。

- 著作権関係の確認など各種コンプライアンスの順守
- 言葉遣いや字幕などで不適切な表現がないかなどの内容確認が必要
- 子ども向け動画では、わかりやすい言葉選びをし、漢字は平易なものにするなどの工夫が必要
- 当初自宅で楽しめる子ども向け動画が中心でしたが、今後は、教育委員会のブランドチャンネルとして、市民のニーズを把握した上でそれにあった動画づくりを目指していくことが必要
- 人気ユーチューバーのようにはいきませんが、動画視聴数拡大の面から、動画のPRが重要。  
PRに関しては、様々な印刷物にQRコードを載せたり、ウェブサイトにPRページを設けたり、市のFacebookやTwitterなどのSNSで発信したりしています。また、一本の時間を短くして動画数を増やし、新たなコンテンツの更新回数を増やす工夫をしています。

## 8. 今後の展望

動画配信開始当初は、子どもたちの中にはネット環境の整っていない家庭もありました。

しかし、文部科学省のGIGAスクール構想事業により、泉南市でも令和2年12月から令和3年1月にかけて、**LTEモデル（無線ルーター不要）のiPadタブレット**が小中学生全員に配布され、家庭での視聴もできるようになりました。

また、国のコロナ対策費を活用して、各教室には**65インチモニターやプロジェクター、EZキャスト、校内無線LAN**等が配備され、授業での動画の活用も行われています。



さらに、Google Workspace（旧GSuite）を、教育長から子どもたち一人ひとりまでアカウントを取得し、教職員

用業務用PCの全員配備と相まって、積極活用を行っています。

加えて、泉南市教育委員会では、国のJETプログラムを活用して、14小中学校の全校に1人以上の外国人青年をALTとして招聘するなど、国際化教育にも力を入れています（コロナ禍により順次入国中）。また、彼らにも、幼稚園や小中学校で活用できる動画の作成に取り組んでもらっています。

近い将来、ICT機器を駆使して、外国の学校との交流授業なども行ってみたいと考えています。

泉南市教育委員会のこれらの取組は、ソフト面でもハード面でも緒に就いたばかりですが、市内教職員からは、新時代の教育の研究や実施に前向きな声が多く聞かれます。

○

今後、新型コロナウイルスとの戦いはまだまだ続き、社会のICT化も加速していくでしょう。そのような中、次代を担う子ども向けのデジタルコンテンツ、特に教育用の良質なコンテンツが、ますます重要となってくると考えられます。

また、市民が好きな時間に、密を防ぎながら様々な体験や情報を視覚的、聴覚的に繰り返し受け取ることができるような市民サービスが求められているのではないのでしょうか。

泉南市教育委員会では、今後、さらに効果的に、さらに発信力を増して、市民や子どもたちに楽しい情報を発信していけるよう取り組んでまいります。